

令和5年度 半田中学校 学校評価計画

	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	活動計画	評価指標	評価	学校関係者の意見	
学習指導	1. 授業を大切に、各教科における基礎・基本を身につけることができる。	1. 各教科で基礎・基本を中心とした反復学習や小テストを継続的に行うことで、達成感や満足感を得られるようにする。	1. 「学習内容が80%以上理解できている」と答える生徒を90%以上にする。	1. 「思う」「どちらかという思う」と答えた生徒は65%で、目標値90%に達しなかった。	B	1. 35%の生徒が学習内容の理解に不安をもっている現状がある。基礎・基本の定着に向けた反復練習や小テストの実施、課題解決に向けて自ら考え取り組める授業づくりの工夫など、生徒が「わかる・できる」喜びを実感できるようにする。 2. 家庭での学習方法が分からないことが自主学習につながらない一因であるとする。ワークやICTドリル教材等を使った自主学習方法の紹介や指導を継続し、宿題以外にも自主的に学習に取り組む意欲と実践力を養う。
	2. 家庭学習の習慣を身につけることができる。	2. 「学習の手引き」の活用や、タブレット学習の具体的方法を示すことで、主体的に宿題や自主学習に取り組めるよう指導する。	2. 「毎日の家庭学習の時間が平均1時間以上である」と答える生徒を90%以上にする。	2. 「思う」「どちらかという思う」と答えた生徒は73%で、目標値90%に達しなかった。	B	
生徒指導	1. いつでも、どこでも、誰に対しても気持ちの良い受け答えと正しい言葉遣いができる。	1. TPOに応じた言葉遣いの在り方について伝え、できていない場合にはその都度丁寧に指導する。	1. 「できている」と答える生徒・保護者・教員の90%以上にする。教員間で情報を交換し確認する。	1. 「思う」「どちらかという思う」と答えたのは、生徒83%、保護者88%、教員85%で、わずかに目標値90%に達しなかった。	B	1. 基本的なマナーとして、TPOに応じた言葉づかいが身につくように指導を継続する。言動や服装等の変化や言葉づかいの乱れが、心に抱えた問題や悩みのサインである可能性もあるため、きめ細かな観察や対応を行う。 2. 授業時や朝夕のあいさつを中心に、部活動や校外学習等の機会も有効活用しながら、気持ちのよい挨拶の常態化に努める。引き続き、「あいさつ運動」など、生徒主体の活動を活性化させていく。
	2. いつでも、どこでも、誰に対しても気持ちの良いあいさつができる。	2. 授業の始業・終業時や朝・帰りのあいさつを中心に継続的に指導を行うとともに、生徒会による「あいさつ運動」など生徒主体の取組を活性化していく。	2. 「できている」と答える生徒、教員をともに100%にする。教員間で情報を交換し確認する。	2. 「思う」「どちらかという思う」と答えたのは、生徒79%、教員85%で、目標値100%を達成できなかった。	B	
道徳・人権教育	1. 生徒が「自分も人も大切に生活できている」と感じられる集団をつくる。	1. いじめなど学校生活に関するアンケートを行う。	1. 「いじめのない学校である」と感じる生徒・保護者・教員の割合を100%にする。	1. 生徒18%、保護者16%から「思わない」「どちらかという思わない」との回答を得た。目標を達成できなかった。	B	1. 教育活動全体を通じて、自他ともに大切にできる集団づくりに尽力し、きめ細かな指導と早期対応を行う。学校へ行くのが楽しいと思える、やりがいや目標、自己有用感をもった生徒を育てる。 2. 体験活動や道徳の授業等の充実を図る。また、自分の考えを書いたり、発表したりすることを通して、生き方を見つめ、異なる考えを知り、違いを認め合うことや、話し合いができる仲間づくりを行う。
	2. 思いやりや感謝の心を育て道徳性を高める。	2. 教材を工夫した授業や、体験活動の事前・事後学習を充実させる。	2. 自分の考えを書いたり発表したりすることを通して、自分の生き方を見つめている生徒が95%以上になる。	2. 「思う」「どちらかという思う」と答えた生徒は75%で、目標値95%に達しなかった。	B	
特別支援教育	1. 「生きる力」を培うための、個々の生徒の特性や能力に応じた、個性や長所を生かす支援・指導に取り組む。	1. 個々の生徒の学習能力や、得意・長所を生かし、伸ばせる支援・指導に取り組む。特別支援学級においては、「個別の指導計画」「教育支援計画」を作成する。	1. 「デジタル機器の使用等をはじめ視覚的・聴覚的にも工夫、配慮された、誰もがわかりやすい指導・支援の取り組みが行われている」と答える保護者が80%以上になる。	1. 「思う」「どちらかという思う」と答えた保護者は64%で、目標値80%に達しなかった。	B	1. 困り感をもった生徒の把握と一人一人の個性や特性の理解を図る。また、デジタル機器等を効果的に活用した誰もがわかりやすい指導・支援の在り方や実践方法について、教職員研修を進めていく。 2. 引き続き、学校・学年だより、各種リーフレットによる啓発や日々の教育活動全般を通して、特別な支援を必要とする子どもたちへの正しい理解と支援が得られるよう努める。また、保護者が相談しやすい体制や関係づくりを図る。
	2. 特別支援教育について、また発達障がい等についての理解・啓発を図る。	2. 特別支援教育通信や、日々の教育活動全般を通して、生徒および保護者への理解・啓発を進める。	2. 「発達障がいについて、知識・理解を得ることができた」と答える保護者・生徒が75%以上になる。	2. 「思う」「どちらかという思う」と答えたのは、生徒92%、保護者84%で、目標値75%以上を達成した。	A	
健康・安全指導	1. 健康な生活を送るために、望ましい生活リズムを身につけ、習慣化できるようにする。	1. 生徒がFormsで、毎朝、生活チェックを行うことで、自身の生活をこまめに振り返る機会をつくとともに、教員による指導・助言につなげる。健康教育について、保健だより・掲示物を使った啓発活動や様々な場面での指導を行う。	1. 「毎日朝ごはんを食べている」生徒を90%以上、「毎日0時までには就寝できている」生徒を70%以上にする。	1. 「毎日朝ごはんを食べている」生徒は89%で目標値90%をほぼ達成できた。「0時までには就寝できている」生徒は79%で、目標値70%以上を達成した。	A	1. 養護教諭や保健給食委員会を中心とした啓発活動やセルフチェックの実施により、自身の健康や生活を振り返り、自己管理への意識や習慣が向上している生徒が増えてきている。今後も家庭と学校の双方から健康教育を進めていく。特に、メディア機器の使用については、引き続き注意喚起が必要である。 2. 自他の生命と安全を守るため、交通ルールを守ることは大切であることを理解し、実践できる生徒を育てる。また、生徒、保護者、教職員、地域など、様々な視点から生徒の安全を守る環境整備に取り組む。
	2. 交通安全に対しての意識を高めるとともに、交通ルールやマナーをとった生活ができるようにする。	2. 交通安全教室や交通安全指導、学活や道徳などの授業を活用し、指導を進めていく。また、委員会活動など、生徒が主体となった活動を行っていく。	2. 「交通安全に気をつけてルールやマナーが守れている」と答える生徒を90%以上にする。	2. 「思う」「どちらかという思う」と答えた生徒は96%で、目標値90%以上を達成できた。	A	
開かれた学校づくり	1. 保護者や地域の方々の学校運営や教育活動についての理解を深めるようにする。	1. 学校行事や日常の様子を知ってもらえるよう、職員間で協力して魅力的な学校・学年通信、HPづくりに努める。	1. 「学校・学年通信やHPなどによって学校理解が深まった」と答える保護者を90%以上にする。	1. 「思う」「どちらかという思う」と答えた保護者は90%で、目標値90%に達した。	A	1. 保護者への電話連絡、面談等による情報共有や相談対応を行うとともに、大事な情報発信ツールである学校・学年通信やHPをさらに魅力あるものにし、効果的・効率的な情報発信を創意工夫していく。 2. 保護者や地域の方が参加できる学校行事や地域と連携した学習活動、学校支援ボランティアへの協力要請など、生徒の健やかな成長を支えるよりよい連携の方法を検討し、実行していく。
	2. 学校・家庭・地域の連携を深める。	2. 保護者や地域の方が参加できる学校行事や、地域と連携した学習活動を取り入れ、学校への関心を高める。	2. 「学校・家庭・地域の連携ができていく」と答える保護者・教員を90%以上にする。	2. 「思う」「どちらかという思う」と答えた教員は100%だが、保護者74%で、目標値90%を達成できなかった。	B	

別紙参照